

# 1982年沖縄本島において発生した無菌性髄膜炎について

新城長重

## Aseptic Meningitis Occurred on Okinawa Main Island in 1982

Nagashige SHINJO

1982年5月下旬から10月上旬までの約4カ月余の間、主として沖縄本島中南部において小学校および幼稚園を中心とした無菌性髄膜炎の流行が見られた。感染症サーベイランスの定点網によって得られた資料では、流行期間中に425名の患者発生があり、患者多発のピークは6月下旬にあり、学校の夏休みに入って患者発生数は減少しはじめたが、小規模の散発的な流行が続き、延々と10月上旬に至ってやっと終息した(図1)。

これを保健所管区別にみると、石川とコザの両保健所管内でほとんど同時に患者が発生しはじめており、初期の頃は石川の方が患者数が多かったが、6月下旬にはコザの方が優勢になり、その頃から那覇保健所管内でも患者が多発するようになった。最終的な患者数は南部地区が最も多く、続いてコザ地区でいずれも100名を突破した(図2)。

患者の年齢的な分布をみると、すべて15歳(中学生)以下で成人の罹患者は認められなかった(図3)。

病原ウイルス分離のための検体としては県立中部病院から提供された髄液、咽頭スワブ、便を用いた。髄液以外の検体は予め配布してあった輸送用培地に入れて収集時まで、できるだけ低温に保存してもらい、少くとも週1回は回収して研究所に搬入し、検査に着手するまで $-75^{\circ}\text{C}$ に凍結保存した。ウイルス分離にはサル腎細胞(初代)とVero細胞を使用した。それぞれの細胞を24穴の平底マルチプレートに培養し、炭酸ガス培養器を用いて分離を行なった。これまでに処理した検体とくに髄液45件から12株のウイルスが得られ、中和試験の結果、そのほとんどがECHO・11型と同定された。その他、咽頭スワブや便からも複数のウイルスが得られたが、ECHO以外のものはまだ同定するには至っていない。得られた患者のペアー血清についても中和抗体価を測定中である。

本資料の要旨は第8回九州衛生公害技術協議会(宮崎)において発表した。

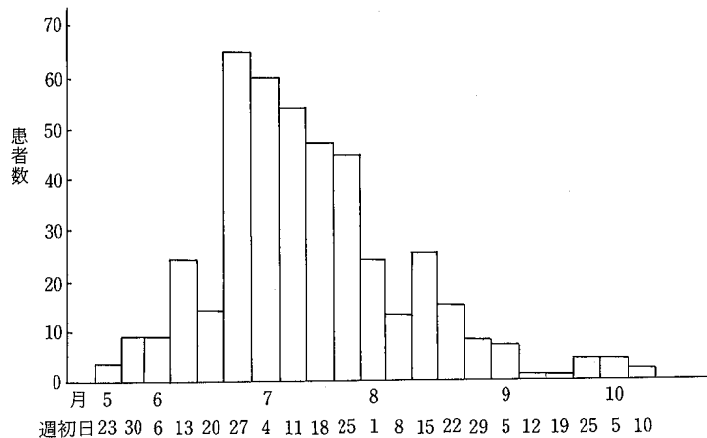


図1 週別患者発生数(計425名)

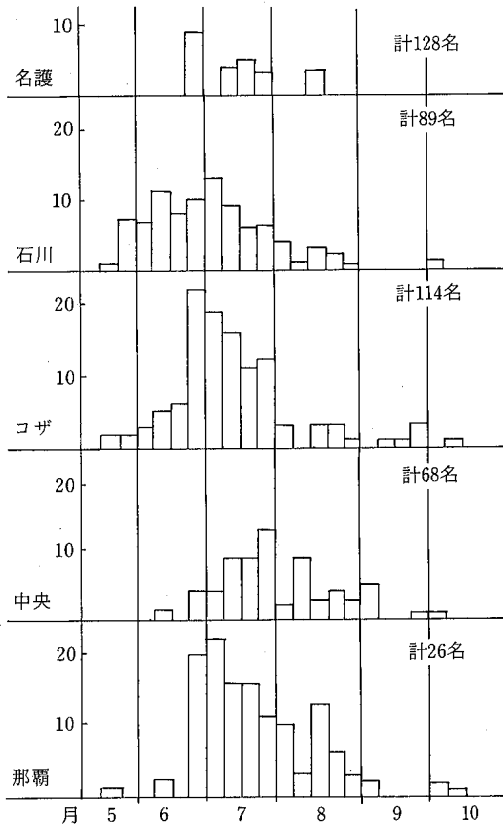


図 2 保健所管区別週別患者発生数

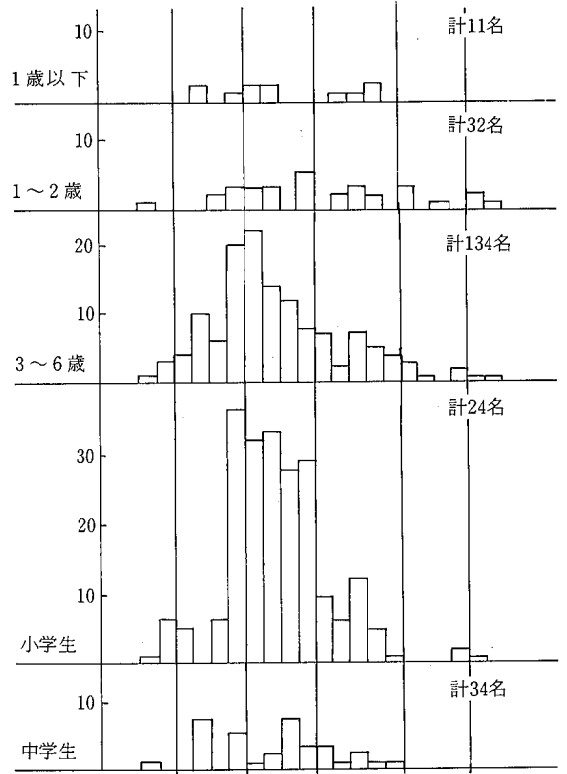


図 3 年齢別週別患者発生数